



森林と人を 生かす知恵 151

江戸時代はいい時代？

岐阜県立森林文化アカデミー 教授 ● 柳沢 直

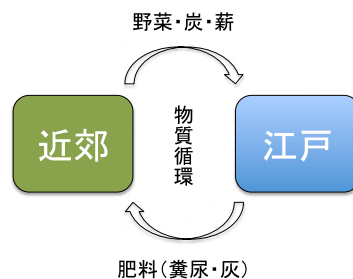
突然ですが、みなさん過去の好きな時代に生まれることができたとしたら、どの時代に生まれたいですか？ただし、現代以外、日本国内限定で。人によって様々な意見があると思います。が、私は江戸時代を推します。

理由は様々あるのですが、一つには珍しく平和の続いた時代であったことです。一揆や限定的な戦は除くと、大坂夏の陣から戊辰戦争までの期間は実に253年。この間が真に平和だったとは言えないかもしれませんが、この長さは世界的にみても珍しいのではないのでしょうか。

もう一つの理由は江戸の町に住んでみたい、ということ。よく江戸時代は持続可能社会のひとつのモデルだと言われます。江戸は18世紀初頭で人口が100万人を超えたと言われており、当時のロンドンやパリと比べても群を抜いて多かった

ようです。さらに地方からの出稼ぎ

人を加えた江戸の人口密度は世界一だったといわれます。これだけの人口が高密度で破綻なく暮らし続けていた理由のひとつは、汲み取り式のトイレに集めた糞尿を近郊の農地に運び、野菜や穀物の生産に使うという循環システムが確立していたからだと考えられています。糞尿をたらいにためて窓から投げ捨てていたパリなどに比べれば、食料の増産に寄与するだけでなく、衛生管理の点から疫病の流行を抑えることができるという意味でも先進的な仕組みだと思えます。また、農地は江戸の居住地に入り込んでいて、食料生産以外にも都市の住環境の向上や、都市住民に農民が農的知識を授けるといった交流などにより、都市住民に益をもたらしていたようです。このあたりは現代にも通じますね。



江戸と近郊の物質循環

燃料についてはどうでしょうか。

化石燃料を使っていない江戸の暮らしで燃料と言えば、薪や炭ですよね。どちらも武蔵野の雑木林で生産できますが、100万人に及ぶ江戸の需要を満たすことは到底不可能であり、相模や伊豆、甲斐、常陸や下総など江戸に隣接する近郊で生産されたものが運び込まれていました。幕末にはその量、炭だけで年間約250万俵とのこと。重量にして約5万トンです。令和元年の全国の木炭の生産量は約2万トンなので、当時の江戸がいかに大消

費地であったかがわかります。江戸周辺の里山が荒れていなかったか、見てみたいところです。

人文系の研究者によれば、江戸には様々な商売があり、思い立ったら誰でも仕事を始められ、女性も多く活躍していた、そして物価も安定していたので、適度に働いて残りの時間を余暇に充てることも可能だった、ということ。現代のSDGsで示されている課題の多くが既に解決済みだなんて、素敵ですね。実際には平均寿命は30歳程度であったり、疫病や飢饉に遭遇したり、苦労は絶えなかったと思いますが。

最後の理由は、当時の森林を直接この目で見たこと、です。南方熊楠や牧野富太郎が目にした自然に触れることができれば、このうえない幸せだと思います。なぜなら、それらは日本が近代化してから現代に至るまでの間に失われて二度と目にすることができない貴重なものだからです。近代化の過程で失われたものは、自然そのものか、はたまた人間を自然の中において考える自然との接し方なのか、江戸時代は多くのことを教えてくれそうです。